

東証プライム

証券コード 5957



2026年12月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年5月13日
日東精工株式会社

NITTOSEIKO
Taking new steps forward together

1. 2026年12月期第1四半期 業績概要
2. セグメント別業績概要
3. 2026年12月期 業績予想
4. 参考資料

1. 2026年12月期第1四半期 業績概要

業績ハイライト

(単位：百万円/%) **NITTOSEIKO**

	FY2025/1Q		FY2026/1Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	11,579	100.0	12,594	100.0	1,014	8.8
売上原価	8,791	75.9	9,516	75.6	724	8.2
売上総利益	2,788	24.1	3,077	24.4	289	10.4
販売管理費	2,246	19.4	2,090	16.6	△ 156	△ 7.0
営業利益	541	4.7	987	7.8	446	82.5
経常利益	531	4.6	956	7.6	424	79.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	242	2.1	604	4.8	362	149.4
一株当たり当期純利益 (円)	6.69		16.66			

決算のポイント

売上高
+8.8%

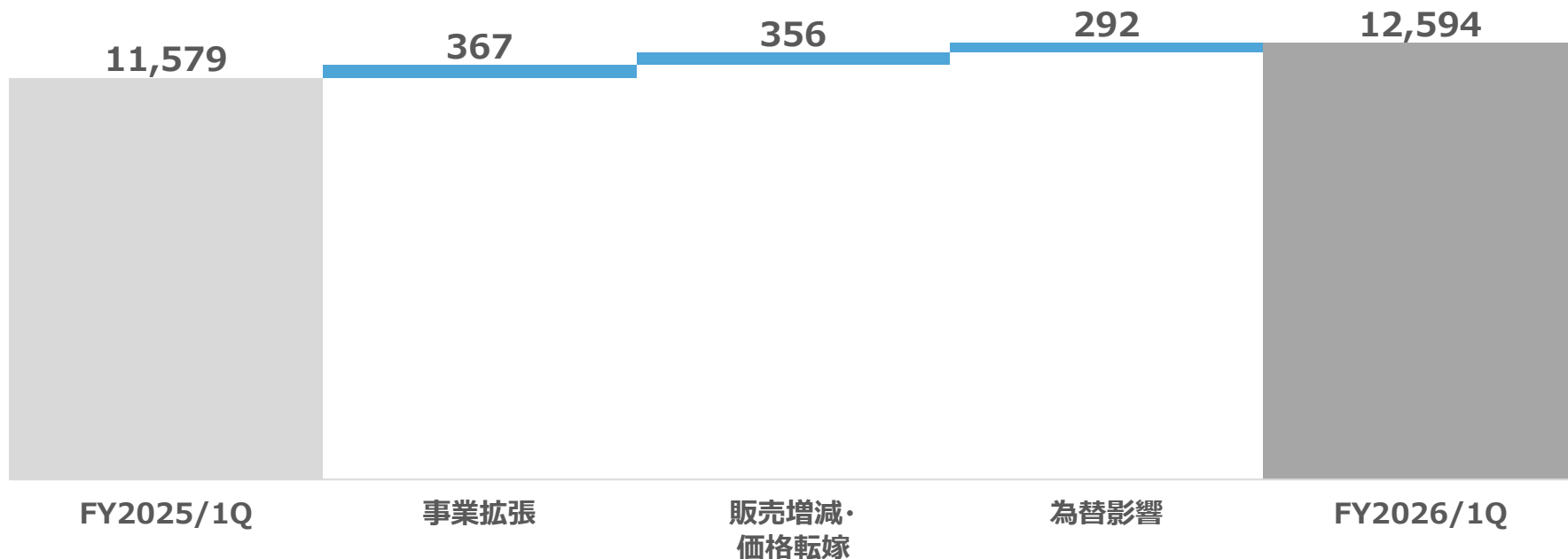
- ファスナー事業はインドでの売上が好調。国内自動車向けがCASE関連におけるADAS（先進運転支援システム）中心に好調。東南アジアの家電向けは、中国からの生産移管もあり好調に推移。
- 産機事業は主力の自動車世界的なEV市場の鈍化、国内での車種モデルチェンジ減少等の影響でやや伸び悩み。一方、データセンター関連の増加、汎用エンジン用大型設備の売上により全体では増収。
- 制御事業はエネルギー分野で石油関連元素計の好調継続も、化学・薬品で部品遅れにより膨らんでいた前年の受注残解消の影響を受け減少。

営業利益
+82.5%

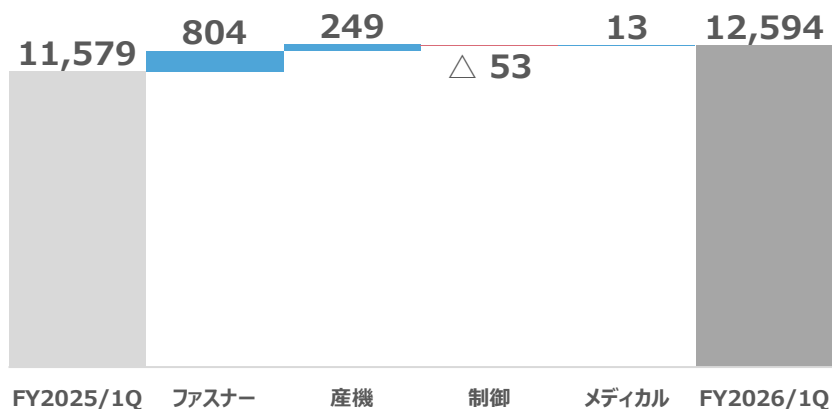
- 売上高増加に加え、2025/1QはM&A関連費を286百万円計上したため、前年同期比で販管費が減少し増益。

売上高 増減要因

(単位：百万円)



セグメント別売上高増減



事業拡張

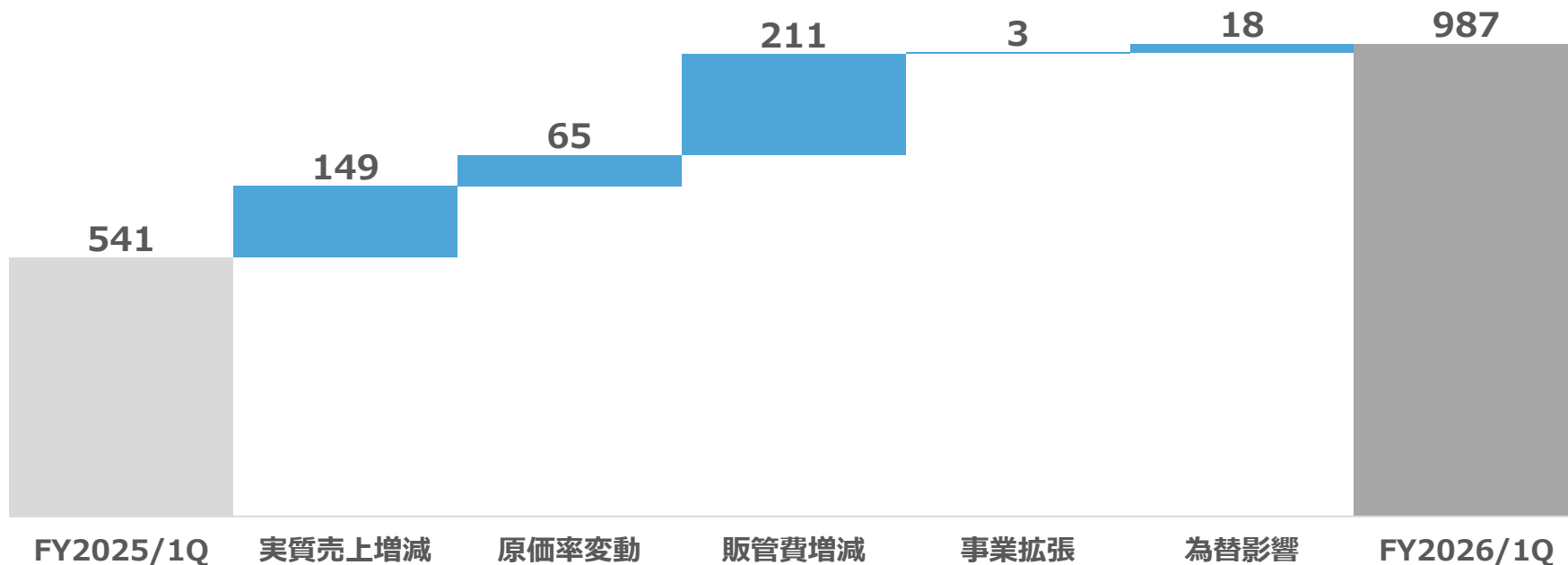
インドでの自動車・二輪車向け売上が貢献。

販売増減

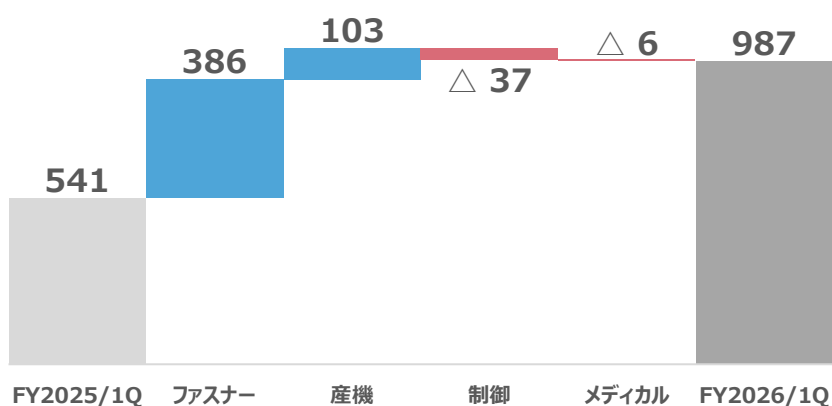
国内自動車向けのCASE関連、東南アジアの家電向けのファスナー製品が好調。産機の汎用エンジン用大型設備も売上に貢献。
データセンター向けなど生成AI関連も複数セグメントで需要拡大。

営業利益 増減要因

(単位：百万円)



セグメント別営業利益増減



原価率
変動要因

資材高騰の影響を受ける中、調達先・発注方式の見直し、金型改善、内製化推進などによる製造コスト低減を推進。

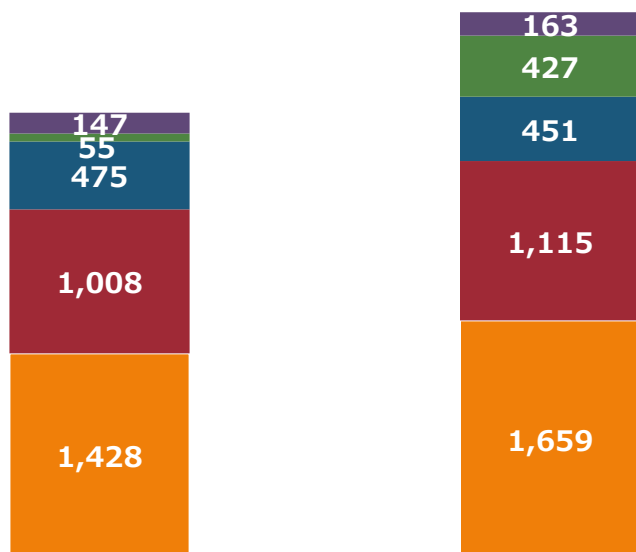
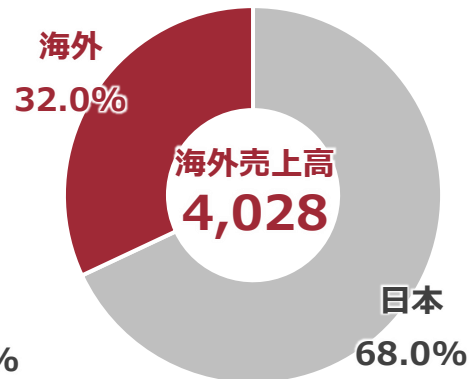
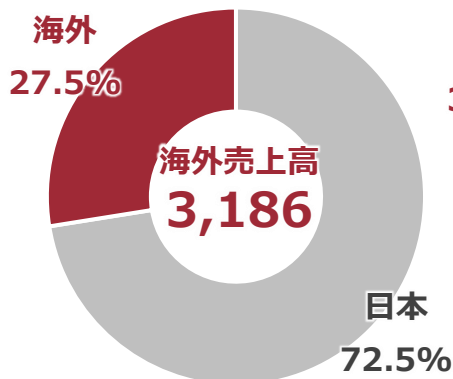
販管費
変動要因

2025/1QはM&A関連費用を計上したため、前年同期比では販管費が大幅減。賃上げにより労務費が増加。

(単位：百万円)

2025/1Q

2026/1Q



2025/1Q

2026/1Q

■ 東南アジア ■ 東アジア ■ 北米 ■ 南アジア ■ 欧州

FY2026/1Qの概況

- 前年同期比で南アジア（インド）と東南アジアが伸長し、海外売上全体は増加。
- 南アジアで3.7億円増。南アジア以外の海外全体で4.7億円増。うち、為替による影響で2.9億円増。

欧州

+10.9%

石油精製、石油化学向けの元素計が好調。

南アジア

+675.1%

インド向け拡販で増加。

北米

△5.2%

米国関税措置の影響で住宅建築向けのファスナー製品が低調。

東アジア

+10.7%

韓国で自動車向け設備、中国で住宅建築向けファスナー製品が好調。

東南アジア

+16.2%

マレーシアで家電向けのファスナー製品が好調。

貸借対照表

(単位：百万円/%) **NITTOSEIKO**

	FY2025/4Q		FY2026/1Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産合計	35,850	62.2	34,616	61.4	△ 1,233	△ 3.4
現金及び預金	10,493	18.2	10,175	18.1	△ 318	△ 3.0
売上債権	12,477	21.6	11,494	20.4	△ 983	△ 7.9
棚卸資産	11,753	20.4	12,175	21.6	422	3.6
固定資産合計	21,822	37.8	21,732	38.6	△ 90	△ 0.4
有形固定資産	15,661	27.2	15,562	27.6	△ 98	△ 0.6
無形固定資産	1,082	1.9	1,048	1.9	△ 34	△ 3.2
投資その他の資産	5,078	8.8	5,120	9.1	42	0.8
資産合計	57,673	100.0	56,348	100.0	△ 1,324	△ 2.3
流動負債合計	11,833	20.5	10,525	18.7	△ 1,308	△ 11.1
仕入債務	7,101	12.3	6,086	10.8	△ 1,014	△ 14.3
短期借入金	1,714	3.0	1,810	3.2	95	5.6
固定負債合計	4,837	8.4	4,584	8.1	△ 252	△ 5.2
長期借入金	962	1.7	752	1.3	△ 209	△ 21.8
負債合計	16,670	28.9	15,109	26.8	△ 1,560	△ 9.4
資本金	3,522	6.1	3,522	6.2	—	—
資本・利益剰余金	32,208	55.8	32,359	57.4	150	0.5
自己株式	△ 1,746	△ 3.0	△ 1,771	△ 3.1	△ 24	—
純資産合計	41,002	71.1	41,238	73.2	236	0.6

2. セグメント別業績概要

セグメント別売上高・営業利益

NITTOSEIKO

(単位：百万円/%)

		FY2025/1Q	FY2026/1Q	前年同期比	
		金額	金額	金額	増減率
ファスナー事業	売上高	8,573	9,377	804	9.4
	営業利益	244	631	386	157.9
	利益率	2.9	6.7	—	3.9
産機事業	売上高	1,313	1,563	249	19.0
	営業利益	173	277	103	59.7
	利益率	13.2	17.7	—	4.5
制御事業	売上高	1,681	1,627	△ 53	△ 3.2
	営業利益	146	109	△ 37	△ 25.5
	利益率	8.7	6.7	—	△ 2.0
メディカル事業	売上高	11	24	13	120.8
	営業利益	△ 23	△ 30	△ 6	—
	利益率	—	—	—	—

セグメント別業績概要 ファスナー事業

NITTOSEIKO

(単位：百万円/%)

売上高

前年同期比で増収

自動車業界においてインドでの売上が業績に貢献。前年大幅増のゲーム機向けは生産調整で一旦落ち着いたものの、国内を中心とする自動車のCASE関連需要、東南アジアの家電向け需要が増加。

営業利益

前年同期比で増益

2025/1QにM&A関連費用を計上したため前年同期比で販管費が減少。
加えて、調達先の見直しや金型改善、工場集約に伴う生産工程見直しなどによる製造コスト低減・利益率向上の改革効果が出た。

	FY2025/1Q	FY2026/1Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	8,573	9,377	804	9.4	
自動車	3,390	3,931	541	16.0	インドでの売上が業績に貢献。国内中心にADAS（先進運転支援システム）向けのオリジナル品好調。軽量化・薄板化貢献の「JOISTUD」、車載バッテリー向けの異種金属接合「AKROSE」も引き合い活発。
住宅・建築	1,742	1,756	14	0.8	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延などが続き、前年同期比で横ばい。
電機・電子部品	1,216	1,340	123	10.2	中国からの生産移管でマレーシア中心に東南アジアで好調。
雑貨	685	567	△ 118	△ 17.3	前年好調のゲーム機向け精密ねじは生産調整で減少。一定の需要は継続見込み。
精密機器	361	469	108	29.8	国内でレンズ等の映像・光学向けが増加。
I T・情報機器	408	388	△ 20	△ 4.9	マレーシアでOA機器向けがやや減少。中国からの生産移管は引き続き進行。
エネルギー関連	91	164	73	79.7	生成AI需要によりデータセンター向けに「CPグループ」が好調。
その他	676	757	81	12.0	医療機器向けの受注増加。
営業利益	244	631	386	157.9	

(単位：百万円/%)

売上高

前年同期比で増収

主力の自動車業界では、国内はCASE関連製品の売上を確保、海外は韓国・インドを中心に好調に推移したものの、世界的なEV市場の鈍化、国内での車種モデルチェンジ減少等の影響でやや伸び悩んだ。一方、データセンター関連の増加、汎用エンジン用大型設備の売上により全体では増収。

営業利益

前年同期比で増益

資材高騰の影響を受ける中、発注方式の見直しによるコスト削減に加え、内製化比率の向上や新規サプライヤーとの協業推進などの取り組みを進めた結果、収益性が改善し、前年同期比で増益。

	FY2025/1Q	FY2026/1Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	1,313	1,563	249	19.0	
自動車	779	766	△ 13	△ 1.7	国内ではCASE関連製品で一定の売上を確保し、海外では韓国・インドを中心に好調に推移したものの、世界的なEV市場の鈍化、国内での車種モデルチェンジ減少等の影響でやや伸び悩んだ。
電機・電子部品	163	176	12	7.3	家電向け設備老朽化による更新需要により前年同期比やや増。
エネルギー関連	122	132	9	7.3	電力メーター関連の大型設備投資は一段落したが、ガスメーター関連を含め老朽化対応などは継続で横ばい。
遊技機	70	102	31	43.7	更新用の大型改造工事により増。
I T・情報機器	19	87	67	344.0	国内外においてAI需要拡大に伴いデータセンター関連増。
住宅・建築	31	19	△ 11	△ 35.3	主要ユーザーにおける設備投資抑制の影響で前年同期比やや減。
その他	126	278	152	119.7	汎用エンジン用大型設備、老朽化による更新需要により増。
営業利益	173	277	103	59.7	

セグメント別業績概要 制御事業

NITTOSEIKO

(単位：百万円/%)

売上高

前年同期比で減収

エネルギー分野で石油関連の元素計の好調が継続。自動車関連の自動化・省人化に貢献する検査選別装置も需要が高まった。一方、化学・薬品における分析装置の前年の受注残解消の影響を受け、全体では減収。

営業利益

前年同期比で減益

高付加価値製品の前年の受注残解消の影響で、前年同期比で減益。デザインレビューによる設計改善および調達条件の見直しによる原価低減を実施中。

新製品情報

大型クレーン転倒リスクを評価する試験機「GeoJudge™」^{ジオジャッジ}を6月に発売予定。

	FY2025/1Q	FY2026/1Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	1,681	1,627	△ 53	△ 3.2	
化学・薬品	423	298	△ 124	△ 29.4	分析装置の部品遅れにより膨らんでいた受注残が前年に概ね解消した影響で、前年同期比で減収。
エネルギー関連	240	298	57	23.8	石油精製、石油化学向けの元素計が好調継続。
自動車	98	124	25	26.3	自動化省人化、研究開発への設備投資が活発。自動車部品検査選別機、評価装置の引合いは多く入手できている。
電機・電子部品	161	117	△ 44	△ 27.5	電池向け水分計、抵抗率計の需要継続も、前年同期比では減少。生成AI需要の高まりでデータセンター向け流量計の受注は増加傾向。
環境	187	114	△ 72	△ 38.8	PFAS規制に対応する2024年発売の有機フッ素分析装置の初動販売が落ち着き前年同期比減。需要自体は継続見込み。4月の公定法採用により小型蒸留装置の引合い増加中。
住宅・建築	95	110	15	16.2	前年3Qより地盤調査機「ジオカルテIV」の更新需要が増え、前年同期比でやや増加。
造船	80	102	21	27.1	造船業界の好調継続により流量計市場も拡大傾向が続く見通し。
その他	393	460	67	17.1	
営業利益	146	109	△ 37	△ 25.5	

セグメント別業績概要 メディカル事業

	FY2025/1Q	FY2026/1Q	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	11	24	13	120.8
医療	11	24	13	120.8
その他	—	—	—	—
営業利益	△ 23	△ 30	△ 6	—

業績

戦略的な市場対応を目的とした製品ポートフォリオの再編に伴い、売上増加。

医療用照明器「FREELED」

コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。

医療用生体内溶解性高純度マグネシウム

2023年の国内特許取得に続き、2024年に米国特許取得。他の主要6ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。引き続き、早期製品化に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。

その他

2025年には医療機器の品質規格であるISO13485を取得。医療機器開発や製造販売業許可による製造受託案件の獲得に向けた生産体制の構築を進める。

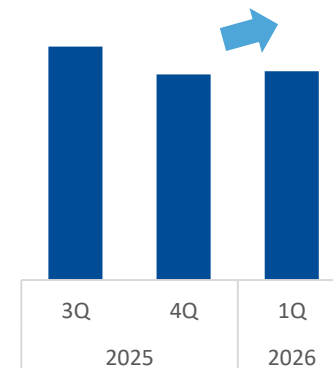
3. 2026年12月期業績予想

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

(単位：百万円/%)

	FY2025		FY2026 (予想)		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	50,238	100.0	52,000	100.0	1,761	3.5
営業利益	3,431	6.8	3,800	7.3	368	10.7
経常利益	3,409	6.8	3,800	7.3	390	11.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,152	4.3	2,300	4.4	147	6.9
一株当たり当期純利益 (円)	59.34	-	63.36	-	-	-

注残の推移



予想のポイント

2Qおよび通期の修正は行わず、現状の公表値を据え置く

売上高

各事業領域の需要動向を反映した安定成長を目指す。

- ファスナー事業**：国内中心の自動車分野でADAS向けオリジナル品が堅調に推移し、高付加価値品の比率を高めることで売上の底堅さを確保。ゲーム機向けの精密ねじは需要の落ちつきを見込む一方、2Q以降の生産回復によって販量の底打ちは進み、全体の売上を支える想定。データセンター向けは増産体制を継続し、CPグリップの生産能力拡大により需要増に対応。
- 産機事業**：海外の設備投資需要の堅調さに加え、国内のデータセンター向けねじ締め機の需要拡大とガスメーター・電力メーター向け設備受注を取り込み、ねじ締め機の比率向上を通じた成長を促進。
- 制御事業**：造船向け流量計、化学・薬品向け元素計の好調に加え、新製品「GeoJudge™」^{ジオジャッジ}上市で売上機会を拡大。海外市場の回復と代理店・子会社を活用した拡販プロジェクトによる新規案件増加で、全体の売上基盤を安定させる。

利益

- オリジナル製品の高い粗利率を軸に全体の収益性を底上げする。データセンター向けの拡大投資など生産体制の強化と高付加価値製品の比率向上により、中長期的にはROICの改善を見込む。
- 自動車業界の高付加価値品の比重増加と、ねじ締め機の重点受注による高収益性を両立させ、粗利率の底堅さを確保。
- 制御事業の新製品「GeoJudge™」は、競合が少ない領域での価格設定を通じて利益率を押し上げる。
- システム製品の統廃合によるポートフォリオ最適化と、受注増を支える成長製品の拡大を通じ、コスト構造の改善と相まって、下期以降の安定的な利益成長を目指す。

セグメント別市場動向と取り組み状況

事業	主な市場動向	取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移	
ファスナー	自動車	電動化によるバッテリー・インバーター向けニーズ、車両の軽量化・薄板化ニーズなどCASE関連需要は継続しているものの、EV関連の生産計画の見直し、日系自動車メーカーの生産減による影響の懸念あり。	<ul style="list-style-type: none"> 収益改善活動として販売課を横断した5つの新市場拡販プロジェクトを立ち上げ活動を強化 代理店との拡販プロジェクトの推進 工場再編による工場間輸送の削減、調達先の見直しなどの製造コスト低減・利益率改善 	
	住宅・建築	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延が継続する見込み。		
	雑貨	ゲーム機は需要の落ち着きに伴い1Qでは減産も、一定の生産量まで回復の見通し。		
産機	自動車	中東問題、及び米国関税政策やEV車向け設備投資延期に伴い不透明な状況が続く。インド、韓国、中南米における自動車部品メーカーの設備投資は継続見込み。	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット先へのデモ実演、プライベート展示会の開催などを強化 データセンター関連への営業強化・完成設備提案の実施 発注方式の見直しなどコスト削減の取組みを継続 	
	電機・電子	中国への関税が引き上げられる中、生産移管や国内回帰により設備投資は増加する見込み。		
	エネルギー関連	電力メータ関連の大型設備投資は一段落したが、ガスメータ関連を含め老朽化対応などは継続する見込み。		
制御	化学・薬品	元素計、水分計の引き合いが活発、更新需要を確実に受注して好調を継続する見通し。	<ul style="list-style-type: none"> クレーン転倒リスク評価BCT試験装置「GeoJudge™」の拡販 技術者の販売同行による訴求力向上と受注率UP システム製品の統廃合および成長製品の受注拡大と適正利益確保 有機溶剤リサイクル装置・分離膜管の上市 	
	エネルギー関連	石油精製、石油化学向けに元素計、自動試料燃焼装置の需要が継続見込み。国内ではSAFなど代替燃料向けの元素計需要拡大の見通し。		
	環境	国内で2026年4月からPFOS・PFOAの規制が決定し需要増に期待。2025年に公定法に採用された小型蒸留装置の販売も好調継続の見通し。		
メディカル	開発計画	2024年の米国を皮切りに「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。同材料の早期製品化に向けて準備を進めると同時に、様々な医療機器領域への適用拡大について探求を進める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。		

現時点では軽微な影響と認識。不確実性は高いものの柔軟な対応によりリスクを最小化

外部環境	米国・イスラエルによるイラン軍事攻撃による地政学的リスクを背景にした、原油価格の変動、海上輸送の混乱、サプライチェーンの先行きに対する不透明感
販売への影響	<ul style="list-style-type: none">2025年実績で中東向け売上は全体の約0.3%とわずか一部自動車メーカーが中東向けの減産分を海外増産へ切り替えるなど生産計画に変更が発生今後、仕入困難により納期遅延が発生する懸念
調達への影響	<ul style="list-style-type: none">今後、材料・エネルギー・副資材〈ねじ熱処理用メタノール、塗装剤（シンナー）、プラ包装、油等〉の入手困難・価格高騰の懸念原油価格高騰・船舶保険料上昇の影響で物流費高騰の懸念
その他の影響	<ul style="list-style-type: none">設備投資発注先の資材調達困難により一部工事を中止予定



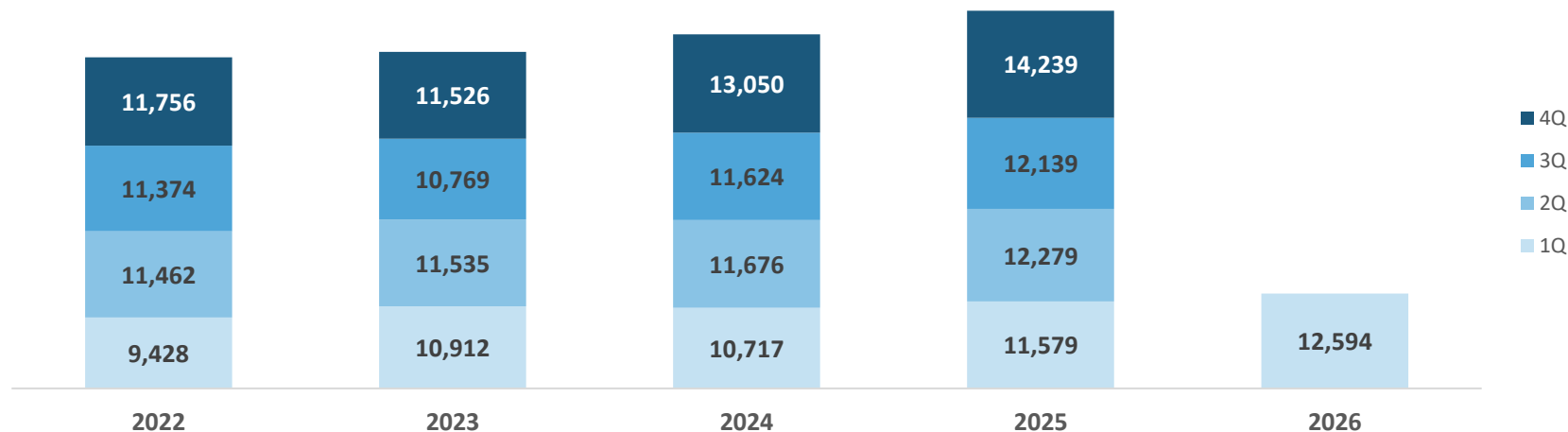
当社の対応	<ul style="list-style-type: none">調達先・調達地域の分散・複線化リードタイム変動を想定した在庫戦略の見直し原価変動に対応した価格調整スキームの構築代替材料の検討、仕様見直し
-------	--

4. 参考資料

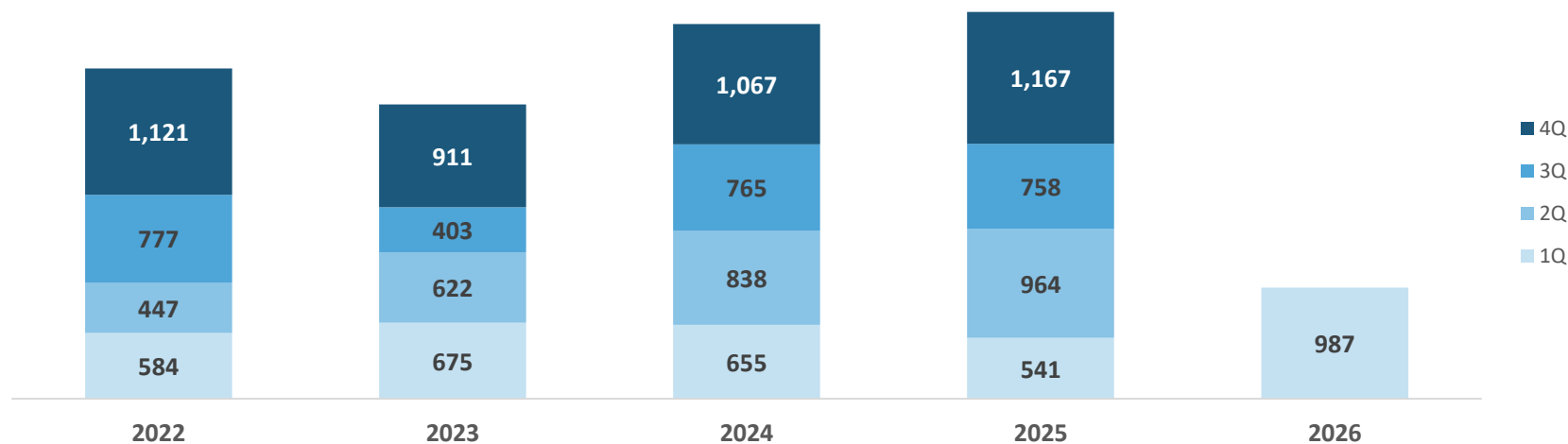
四半期ごとの業績推移

(単位：百万円)

売上高



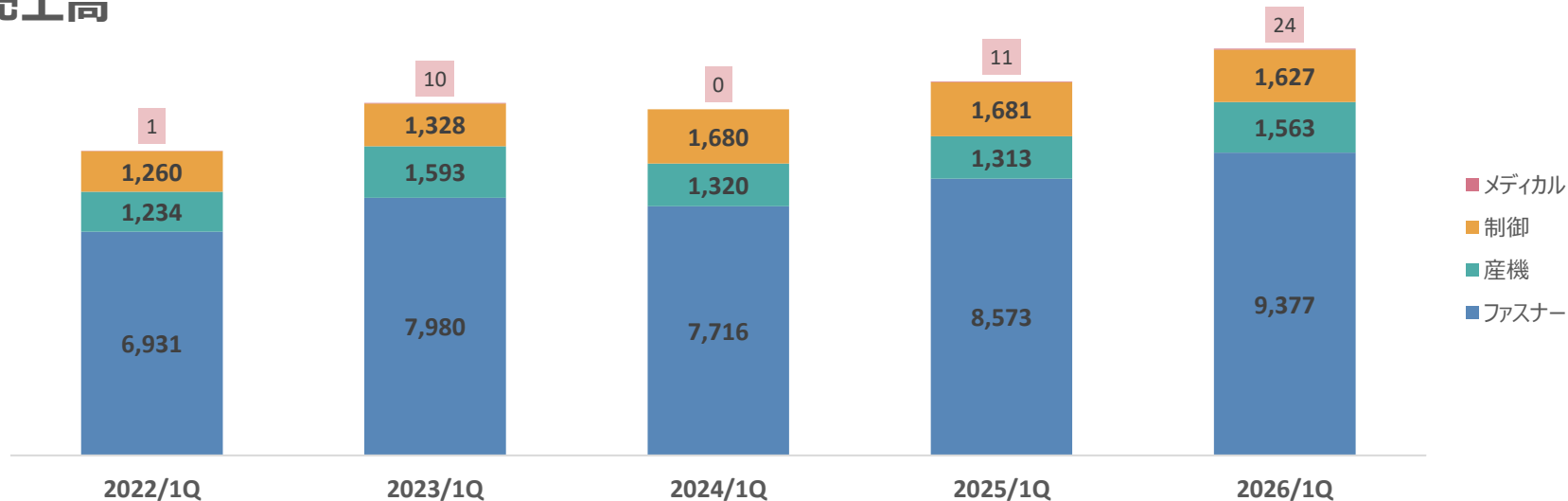
営業利益



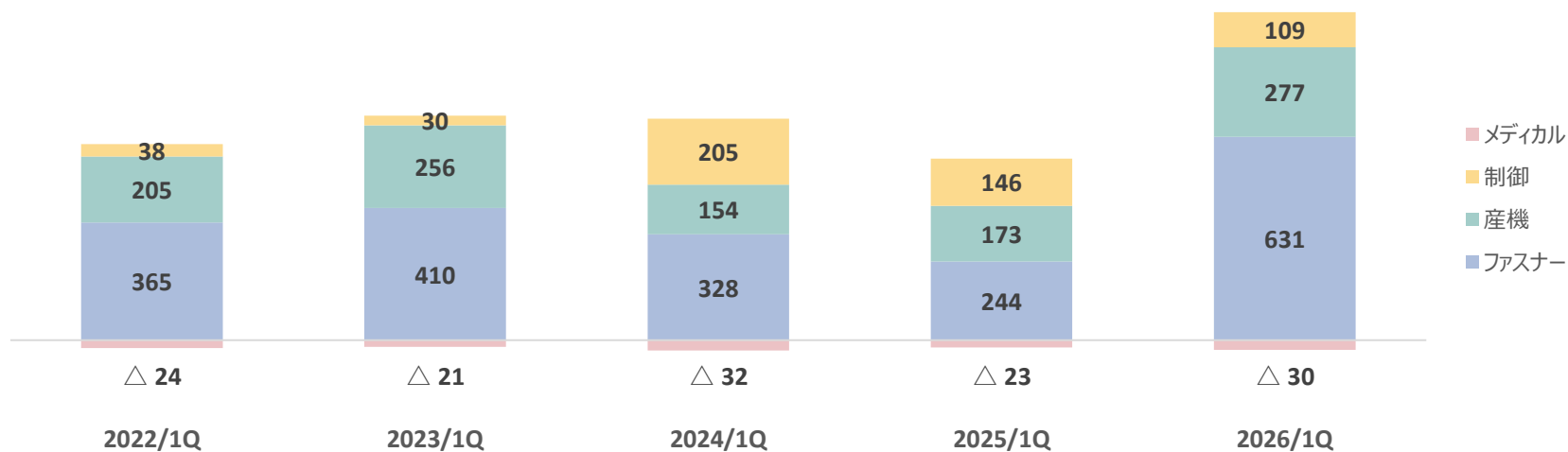
セグメント別業績の同期比較

(単位：百万円)

売上高



営業利益



当社Webサイト IRページ

<https://www.nittoseiko.co.jp/ir.html>

IR お問い合わせ窓口

日東精工株式会社 ESG・IR戦略室
電話：0773-42-3739
E-mail：ir@nittoseiko.com

機関投資家様 個別取材窓口



<https://sharedresearch.jp/ja/companies/5957>



本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

NITTOSEIKO
Taking new steps forward together